8月7日は「機械の日」

2010年度
「機械の日・機械週間」作文コンテスト
応募作品集

社団法人　日本機械学会
「機械の日」実行委員会

2010.8.7(350)

「機械の日・機械週間」作文コンテスト開催にあたって

「機械の日」実行委員長　岩渕　明

みなさん，こんにちは．

日本機械学会によって2006年8月7日に「機械の日・機械週間」が制定されたのに伴い、2007年から実施されている作文コンテストは、今回で4回目となりました。ジュニア会友のみなさんおよび会員のお子さん、お孫さんから、今年は「乗り物」に関係するテーマの作文をたくさんご応募いただきました。有難うございます。

応募者のみなさんは、小学1年生から中学3年生まで、また北海道から九州まで、さらには遠くオーストラリアから全部で37作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいで、審査に当たった審査員の先生方が点数をつけるのに大変苦労しました。学年により4つのグループに分け、それぞれから「優秀賞」を決定しました。

応募作品から、みなさんが想い描く「乗り物」が自転車、自動車、新幹線、飛行機、ロケットと多くの種類に及んでいることが分かりました。さらに、「こんな乗り物があったらいいな」という希望や夢が書かれていました。そういう夢とか希望を持つことはとても大事なことです。その中でも「簡単に空を飛べる自転車があったらいいな～」とか「変身できる自動車ができたらいいな～」という夢を何人の人が同じように書いていました。大人の人は実現できないだろうからとあきらめていますが、もしかしたら、皆さんが大人になった時に実現出来るかもしれませんよ。これまでの乗り物をはじめとして機械の進歩の歴史を振り返ると、昔は実現不可能と思われた事が次々と実現しているではありませんか。どうか皆さんの夢や希望を大事にして下さい。またこの作文集に書かれている事をみなさん自身の手で実現できるように勉強しましょう。

「機械の日・機械週間」については、織姫が彦星と会うために一生懸命布をおった機械にちなんでいます。みなさんがみなさんの周りの人と一緒に毎年8月7日のこの時期に星空を眺めながら、「七夕」と「機械」の関係の故事に思いを馳せ、「機械」について考えていただければ幸いです。また、今後とも科学技術の発達により「人類に役立つ機械はどのようなものであったらいいのか」、「未来の社会や機械はどのようになるのか」などといったことに考えを巡らす機会になればいいと思います。

最後に、この冊子に掲載されている未来を担う子供たちの「乗り物」に対する思いを多くの方に読んでいただきたいと思います。また、作文コンテストを実施するにあたり、応募していただいたみなさん、審査に当たられた先生方、学会事務職員の方々に厚くお礼申し上げます。

2010年8月7日

もくじ

うみにもぐるくるま	内山裕士郎(小学校1年) ……	2
☆のってみたいのりもの	榎田　有玖(小学校1年) ……	3
のりものたちがんばれ！	下茂　海翔(小学校1年) ……	4
こういうひこうきがいい	藤原　紗希(小学校1年) ……	5
ぼくのロケット	内田　海斗(小学校2年) ……	6
うちゅうにいけるのりもの	桐山太一郎(小学校2年) ……	7
おりたたみのキャンピングカー	桐山誠二郎(小学校2年) ……	8
へんしんできるキャンピングカー	小松田雄亮(小学校2年) ……	9
わたしとじてん車	東野　彰子(小学校2年) ……	10
飛べる自動車	山田　詠士(小学校2年) ……	11
色かえ自動車	小笠原尚哉(小学校3年) ……	12
ミライカー	東泉　佳典(小学校3年) ……	13
空とぶのりもの	横山　珠実(小学校3年) ……	14
手のある車	吉川祥太朗(小学校3年) ……	15
☆乗りたいこんな「のりもの」に	内田　有咲(小学校4年) ……	16
べんりなのり物	榎田　千乃(小学校4年) ……	17
地球にやさしい乗り物	東野　弘道(小学校4年) ……	18
変形できる車	内田　璃空(小学校5年) ……	19
理想の車	柿元　健佑(小学校5年) ……	20
私と自転車	小坂　彩芽(小学校5年) ……	21
光合成で走る車	中木　　建(小学校5年) ……	22
未来の車いす	長原祥太朗(小学校5年) ……	23
☆星のふる電車	藤原　由衣(小学校5年) ……	24
立山にいって	松田啓太郎(小学校5年) ……	25
昔の車、今の車、未来の車	山根　久美(小学校5年) ……	26
二〇三〇年　空の旅	渡辺　愛梨(小学校5年) ……	27
未来の乗り物	榎田紗緒里(小学校6年) ……	28
のりものってなんだろう	東泉　和幸(小学校6年) ……	29
のりものって地球を守る	樋口　玲奈(小学校6年) ……	30
交通安全	草刈　佑太(中学校1年) ……	31
次世代の車	中川　創磨(中学校2年) ……	32
将来あったらいい自動車	中村　紀博(中学校2年) ……	33
僕が思う自動車	宮﨑　翔也(中学校2年) ……	34
☆人を助ける乗り物『車椅子』	有松　明克(中学校3年) ……	35
潜水スポーツカー	内田　　天(中学校3年) ……	37
未来を変える、「電磁波交通システム」	大柴　弘貴(中学校3年) ……	38
私の「乗り物取り扱い説明書」	新山　世衣(中学校3年) ……	39

☆は優秀表彰

題名 うみにもぐるくるま

学年 しょう学一年生

名前 うちがまゆうしろう

うみにもぐてっせんすいかんになるひこうき
になるくるまになっていえになるくるまでバ
スになるくるまでタクツーになるくるまで口
ボットになるくるまえらとぶうちゅうせんに
なるくるま

優秀

題名 のってみたいのりもの

学年 小学 一年生　名前 えのきだありひさ

みとまでいくでんしゃと、とおいところまでいくひこうきがあればいいです。なぜかというと、ちかいところはでんしゃでいけて、とおいところはひこうきでいけるからです。

でんしゃのなかでも、とうぶっえんにあるでんしゃは、2しゅうでおわってしまいます。でも、ずかんやテレビでみたしんかんせんは、すごくとおいところまでビュ～ンとひとっとびしています。つくったひとは、すごくえらいなっとおもいます。いちどのってみたいです。でも、みとまでいくでんしゃはゆっくりなのに、どうしてとおくまでいくしんかんせんは、そんなにはやくはしれるのか、わかりません。なつやすみになったら、としょかんでしらべてみたいです。

しんかんせんよりも、ず～っと、とおくへいくひこうきは、もっともっとはやいそうです。それをつくったひとに、どうすればつくれるのか、きいてみたいです。

おおきくなったら、ひこうきよりももっとはやくてとおくにいける、うちゅうせんをつくってみんなでりょこうをしたいです。

がっこうがおやすみのひにかぞくでおでかけすると、どうろはいつもこんでいます。でもおそらをみると、とりたちがじゆうにとびまわっています。だからおそらをじゆうにとべるかぞくよう ののりものがあればいいなとおもいます。おそらのどうろはジェットきにせんをかいてもらいます。のりものどうしがぶつからないように、のりもののまわりにはおおなじむきのじしゃくをとりつけます。そうすればおともだちののりものがちかづいてきても、りょうほうののりものがはなれるのであんぜんです。うきあがるにはのりものをかるくしたいです。かぜがふいているので、エアコンはおうちにおいてきます。おそらからよくみえるので、カーナビもおいてきます。ミュージックはききたいけど、がまんします。

どうろとおそらのりょうほうがあれば、とてもたのしくおでかけができてうれしいです。そんなのりものをつくってくれたらうれしいな。ぼくもどのようなきかいをつくればいいのか、べんきょうしていきたいです。

題名 のりものたちがんばれー

学年 小学 一年生

名前 下茂海羽

ぼくは、のりものが大すきです。車、ひこうき、でん車、バスいろいろあるけれどまだ、しんかんせんにはのったことがありません。

このまえ、いえでかぞくとニュースを見ていたら、アメリカからきた、だいじんが、日本のリニアモーターカーにのってすごい早さだ！すばらしい！」といっていました。

このリニアモーターカーはじ右のようなもののうえにでん車がのっていて、ついたようになっていてセンターでうんてんするそうです。

さいこう五百キロも出るリニアモーターカーにアメリカのだいじんは、びっくりしていました。ぼくは日本のぎじゅつは、すごいんだなと本当にうれしくおもいました。

どんなのりものもたくさんのきかいがつかわれています。ぼくは車のエンジンを見るのが大すきです。エンジンは、人間の体の中のはたいにつながっていて、きかいは体の中のはいやしんぞうのやくわりみたいだなとおもいました。日本はアメリカがびっくりするようなすごいきかいをつくれる国なんだとわかりました。

ぼくもいまからたくさんべんきょうして、ぼくたちが大人になるときにみんなのやくにたって、かぞくや日本が、しあわせになれるきかいをはつめいしてみたいです。

のりものは日本のたからものだからぼくたちはがんばってまもっていこうとおもいます。

題名 ーこういうひこうきがいい

学年 小学一年生　名前 つふじゃらさき

わたしは、ひこうきがすきです。でも、わたしはのりものによってしまうことがあるので、のるのはちょっとこわいです。だから、ゆれなくてよわないひこうきがあったらいいなとおもいます。よわないひこうきだったらきっとすごくたのしいとおもいます。まえにのったとき、みんなでごはんをたべたり、のみものをのんだりしたのはとてもたのしかったです。

ひこうきにはまどがあるのに、しめていることがおおくてつまりません。こっそりちょっとだけあけてみたら、とてもまぶしかったです。ほかのおきゃくさんにめいわくだからあけてはいけないといわれました。まぶしくなければ、そとがみられておもしろいとおもいました。

わたしは、じぶんでひこうきをかいたいとおもいます。かったひこうきで、みんなであそぼうとおもっています。かたちは、しかくのながいのがいいなとおもいます。まるいよりしかくのほうがいっぱいのれて、はしりまわったりすることもできるからです。

うんてんしゅのせきにものってみたいです。うんてんしゅのせきは、ハートやほしがついててかわいくしたいです。ーどだけでいいからひこうきをうんてんしてみたいとおもっています。うんてんするところならそともいっぱいみられます。

じぶんでうんてんすると、ほかのひこうきにぶつかってしまうかもしれません。ひこうきとひこうきがぶつかるのは、そらにしんごうきがないからです。だから、のる人はきをつけなくちゃいけません。めのわるい人はうんてんしゅになっちゃいけなさそうです。ひこうきをうんてんするためには、いっぱいべんきょうしなきゃいけません。いっぱいべんきょうすると、そのせいで、わたしはねむくなってしまうかもしれません。ひこうきをうんてんするときは、がんばってねないようにしようとおもいます。

題名 ぼくのロケット

学年 小学2年生　名前 内田海斗

ぼくは、今、オーストラリアにすんでいます。この前、オーストラリアのウーメラさばくに、ハヤブサというえい星がおちてくることを知りました。おかあさんが「ハヤブサは、なん年ものあいだ、うちゅうをたびして、イトカワという星にいって、そしてその星のかけらをもってかえってきている。」とはなしてくれました。十三日のよる、ぼくたちがぞくは、ハヤブサがおちるところが見られるかもしれないと思って、近くのかいがんにいきました。よなかでさむかったです。天気もよくなくて星をぜんぜん見ることができませんでした。もちろんハヤブサも見ることはできませんでした。つぎの日、ハヤブサがちきゅうにぶじついたことと、イトカワのサンプルが入ったカプセルがさばくで見つかったことをききました。ぼくは本とうによかったと思いました。でも、ぼくはねんりょうがもれていたり、バランスがわるくなったり、いろんなじけんがあったので、ハヤブサはちきゅうにかえれないと思っていました。かえってきたことと、イトカワに、ぼくのかぞくの名前がのったターゲットマーカーをおとせたことは大きせきだと思います。

ぼくはロケットをつくる人になりたいです。名前はスペクユニフォームです。このロケットは、ほかの生きものがすむ星にいきます。そして、その星のちょうさとたんけんをします。このロケットはらかいだてで、かんさつようのへやや、ごはんを食べるところ、考えるへやもあります。ハヤブサみたいなトラブルがおこってもいのっている人が、いっぱい考えて、のりこえていきます。ぼくが考えたのりものは、一どくじけてもまたがんばるせっていになっています。けしてあきらめないロケットです。

題名 うちゅうにいけるのりもの

学年 小学二年生

名前 きりやまたいちろう

ぼくがほしいのりものはうちゅうにいけるのりものです。

タイヤが100こあってしんかんせんみたいな車です。

100人くらいがのれてコンピューターでうごいててジャンプができてむりょうでのれてあとじそく1000キロではしれてせかいーたかいしもはしれてせかいー大きくて早くて200トンをあってコースが1000キロもあるのです。でジャンプするのがせいこうしたらうちゅうにいってうちゅう人もいっしょにのってちきゅうについていつもどうりにくらすのがいいです。

うちゅう人とあそびたいからです。

うちゅう人とあそぶじかんは100じ間をあって一日二日でもすごいもりあがっててごはんはうちゅうごはんをたべてかえったときちきゅうのことをおもいだしてうちゅうじんとちきゅうであそんでつぎの人はうちゅうのおみやげをもらってうちゅうエレベータをつくってせかいエレベータもつくってそれはせかいじゅうみんなでつくってうちゅう人はうちゅうにかえってでもまだうちゅうのおみやげがいっぱいのこってるんです。

みんなでおみやげつくりたいです。

題名 おりたたみのキャンピングカー

学年 小学二年生　名前 きりやませいいろう

ぼくはおりたたみのキャンピングカーがほしいです。キャンピングカーには人が10人のれます。どうして10人かというとかぞくは6人かぞくなのではかに4人おともだちがのれるほうがいいとおもって10人にしました。2かりだてでさいこういそく1000キロでタイわが30こでやれはありません。ベランダが2かいのりょうがわにあってそこにミニトマトがちこずつあります。キャンピングカーのへやには

れいでうことせんたっきとつくえとおふろとすいどうが一つずつあります。ドアがりょうほうのまえうしろに一つずつあります。トイレがろっつあってうしろがわににもつおきばやおきちゃばこなどあって本が100さつあります。2かいのリビングにてれびとソファがあってキッチンもーこそこにはしが26本さらが30まいあってかハだんもあります。どうしておりたたみかというとちゃうしゃいょうにくるまがとまったらお金がかかるちゅうじゃいょうやちゃしゃいょうがないところのためにおりたたみにしました。

みんなでりょこうがしたいです。

題名 へんしんできるキャンピングカー

学年 小学2年生

名前 小松田雄一晃

ぼくは、大人になったら、キャンピングカーがほしいです。でも、ふつうのキャンピングカーではなく、色色なへんしんするのがいいです。

まず一つめは、ボートみたいになります。うしろのところからスクリューがでてきます。ハンドルでうごかせます。それから、タイヤはひっこみます。ぼくは、このキャンピングカーボートで色色な魚をつってみたいです。

二つめは、ひこうきみたいになります。ドアのところにつばさがあって、ふだんはおりたたまれています。ボタンをおすとひろがって、つばさがでてきます。タイヤの上のほうにプロペラづいてます。このひこうきにのって、上から町を見てみたいです。

三つめは、せん水かんです。水にふかくもぐっても、車がつぶれたり、まどがラスがわれないようになっています。石とか岩にぶつかってもあんぜんです。このせん水かんでしん海魚を見てきたいです。

題名 わたしのじてん車

学年 小学2年生　名前 ひがしのあき子

　わたしのじてん車は、ピンク色です。りゆうは、ピンク色がすきだからです。

　このじてん車は、かごにたからものののちがはいっています。はじめは、ほじょりんをつけてのっていたけど、そのつぎはほじょりんなしでれんしゅうしました。おとうさんがおしてわたしがこぎました。なんかいもころんでなんかいもなきました。だけどそのうちにいきおいをつけてペダルをこいだらのれるのができました。

　じてん車でいったところは、秋田えきの前にあるイトーヨーカドーです。じてん車でいくのがたのしいです。りゆうは、いろいろなところがみれるからです。

　よくいくところは、はいしゃさんです。おかあさんとたまにおにいちゃんといきます。

　ちゅうでおかあさんとちがうみちをとおります。そのみちは、ちがいっぱいでガタガタしています。そこをとおると、ジェットコースターみたいになります。とてもたのしいです。石がおちてもたからものの石はすじにわかります。ほかのは、まっくろだけど光や白いのがついているのがじがんのたからです。

　ガタガタみちがおわるとおかあさんといっしょのみちになります。おかあさんがとおるみちは、たいらでスイスイじてん車でいけるけど、車がいっぱいおるのでこわいです。

　あさたは、ふりのあいだ習がいっぱいあるので、じてん車はまれなくなります。はいしゃさんは歩いていきました。ちょっとつかれました。

　3月のおたんじょうびのとき新しいじてんしゃをかってあげるとおとうさんがいいました。わたしは、いまのじてんしゃがいいといいました。だからいまのつかってるじてん車は、たいせつにつかいます。

題名

飛べる自動車

学年 小学二年生　名前 山田 詠士

将来飛べる自動車があったら、僕は絶対に買います。

その自動車は羽があって、空港に行けばどこにでも羽を広げて飛んで旅行に行けます。

空港に行けば直ぜつ行けるので、あったらいいです。

この自動車は、羽があって飛べるだけでなく、目的地を言えばその目的地に自動で行けます。

飛ばないで道路の上を通る時は、じゃまにならないので羽を二重に折りたたんでいます。

飛ぶ時には、羽を広げて、飛行機と同じようにタイヤはしまっておきます。

この自動車がもし本当にあったら、日本だけでなく、世界中の人が買いたがってすごいきおいで売れてすぐなくなると思います。

この自動車のよい所は、飛行機とちがい、ふつうの道路を通れる所です。

この自動車は、電池で走ります。自然環境にやさしいからです。例えば、羽田空港が成田空港から上海の虹橋空港まで行くとしたら、十～二十本あれば行けます。

他の飛行機などが来たら自動的によけます。

ふつうの自動車の運転手さんにあたる所の人も、自動運転なので、後ろを向いて会話できます。

買ったら、ハワイやグアムにお母さんとお父さんとおじいちゃんとおばあちゃんと僕で行きたいです。

売っていなかったら自分で作って、ノーベル賞を受けたいです。

題名 色かえ自動車

学年 小学3年生　名前 小ガさ原なおや

　ぼくの考えたのりものは、「水陸空」です。「水陸空」というのは、水の中をせんすいかんのように、およげます。もちろん陸の上もはしれます。それから空もとべます。けしきのいい場を通るので、たとえば、海の中で、くじらのむれに、まきれておよいだり、空の上からうなスカの地上絵を見ることもできます。けしきがいい所は、写真をとることもできます。

　もっとすごいのは、まわりのけしきにとけこめるように、ボディーカラーが自動的にかわることです。だから、クジラのむれにまぎれこめるし、草原では草の色になれるので、ライオンの子育の様子などもかんさつできます。エジプトでは、ピラミッドの色になってしまうので、「ピラミッドが動いた。」と、みんなをおどろかせてしまうかもしれません。

　タコやカメレオンは体の色をかえることができるので、これを研究して、自動車に色

題名 ミライサー

学年 小学3年生　名前 東泉（ひがしずみ）よしのり

ぼくが、ミライにあると思うものは、ミライサーです。ぼくの、そうぞうしている。ミライサーは、つぎのとおりです。

まずは、何と言っても、あんぜんうんてんです。そして、タイヤのかわりにギャタピラが、ついています。エンジンをうごかすエネルギーは、ふいてくる風や、ごみや、何んでもだいじょうぶです。自どうてきに行きたい所まで、みじかい時間でつれて行ってくれます。時そくチキロメートルぐらくのすごいスピードで走ります。けれど、じこにはなりません。こんでいない道を、あんないしてくれるからです。

色は、いろいろな色があって、その人のすきな、色にできます。ちなみに、ぼくのすきないろは金色です。ただし、ぜん体が、同じ色でないといけません。キャンプもできます。なぜかと言うと、キャンピングサーのしすてむもついているからです。

かこの車とくらべて、かわったことがいくつかあります。一つ目は、すきな所へたん時間で、行けるようになったことです。今はむかしとくらべて、十倍早くなりました。二つ目は、むかしよりねだんがやすくなったので、たくさんの人が買えるようになったことです。三つ目は、サナナどやドリルやプロペラがついていることです。四つ目は色がかわったことです。むかしは黒しかなかったけど、今は、なん十色もの色がえらべるようになったことだと思います。五つ目は国さん車を、何だいもみかけるようになったことです。かっこいいからです。このように、色いろなミライサーがそうぞうできますね。この文を、とうしてミライサーのせいのうをつたえたかったのです。

題名 空とぶのりもの

学年 小学二年生　名前 横山珠実

わたしは、しょう来、空をとぶエコなのりものを作りたいです。なぜ空をとぶのりものにしたかというと町のけしきや、空。雲。雨時には、にじのけしきが見れておもしろそうだし、鳥ともとべて楽しそうだからです。

こののりものは、太陽光発電パネルと風力との半分づつの力で動きます。つける場所は、太陽光発電パネルがのりもののやねの上で、風力発電は、乗るの時のドアにつけます。このりものは、空をとぶから、太陽光発電パネルが太陽に少しでも近づけることができるので、発電しやすいと考えました。

乗れる人数は、十二人までです。それは、二人や三人、もっと多くの人数の家ぞくや友だちとも乗れるからべんりです。人数に合わせて、せきが多くなったり、少くなったりします。のりものの長さも、せきの数に合わせて、アコーディオンのように、長くなったり短くなったりします。のりものの後には、荷物を入れる、トランクがついています。荷物を入れる所も大きくしたり小さくしたりできます。さらに、いすの所は、ホワホワのソファーやベッドにへんしんします。トイレに行きたくなったら、いすがトイレにかわります。ほかにもこまった時にやく立ちます。たとえば、ゆれすぎて、のりものよいになりそうな時ゆれなくなります。あと、ケガや病気の時もすぐ、病院に行けます。なぜなら、空だから、じゅうたいしないからです。

きまっていないけど、名前はエコの工、風力のフ、べんりのベ、多くの人が乗れるのオを使って、空とぶのりものが出来るまでに、名前をきめたいです。

わたしの思うこの空とぶのりものが、わたしの思ったとおりに実げんするといいなあと思います。出来たら一番にお母さんとわたしで乗りたいです。

題名　手のある車

学年　小学三年生　名前　吉川祥太朗

　ぼくの考えたのりものは、虫とりや自研究に役に立つのりものです。どういうのりものかというと、車から手が出てきて、自分で手を動かしたりすると、その手も同じように動きます。車からでてくる手は長くて高いところにもとどきます。そのてで木をゆらすことができます。つかまえた虫は車の中のせんようの場所にいれられます。その場所は、木が生えていて草も生えています。だから、虫たちをかんさつすることや育てることができます。

　長い手は、車が走る時は、両サイドにしまうことができて、じゃまにならないので、スラスラうんてんができるようになります。この車には、だれでものれます。なぜかというと、センサーがついていてものにあたりそうになると止まるからです。だからみんなを乗せてのることができます。もっとやくに立つことがあります。この車は、タイヤのかわりに、空気で進むことができます。タイヤがないので、音がなく、虫がにげることがありません。

　ほかにもやくに立つことがあります。この車は、せんたくものをほす事ができます。せんたくものをおいておくと、一まい一まい広げてものほしにかけてくれます。それに手が長いので、高いところにパパッとせんたくものがほせます。家にせんたくものを入れる時もパパッとできるので、おかあさんやおとうさんのやくに立つことができます。

　ぼくは、このような車があったら、いいなと思います。なぜかというと、自分でこの車をうんてんして、虫などをとって、自由研究をしてみたいからです。それに、だれでも安心してのれるし、おかあさんやおとうさんのやくに立つことができて、みんなのじか人を作ってくれて、本読みや勉強をしたりすることができるようになるからです。

優秀

題名 乗りたい こんな「のりもの」に

学年 小学 四年生 名前 内田 有咲

私は毎日、電車というのりものに乗って、学校に通っています。山道なのでスイッチバックをしながら登っていくため、小田原から強羅までのきょりは長くないはずなのに、とても時間がかかります。

（何でこんなに時間がかかるのだろう。空を飛べたら速いのに）

雨にぬれたあじさいを見ながら、私はこう思いました。

（空を飛ぶ、小さなのりものがあったらいいな）

まほうの様にピューンと飛べて学校に行けたら。気軽に空を飛べるのりものがあったら。

空を飛べる自転車の様なのりものだったら、空気をよごすことも無いので、箱根の自然も守れます。私は、理想の「のりもの」を思いうかべてみました。

自転車に飛行きのつばさをつけた様な形で、一番前にプロペラがいくつかついていて、そこと持ち手のハンドルは、つながっています。

その後ろにいすがあり、いすの下に着地用のペダルがあります。いすの上には、雨がさ兼日がさがあります。いすの後ろには主よく、そのまた後ろにはびよくがあります。つばさには、太陽電池がついているので、使わないときは、パネルとして使えます。びよくの後ろには、プロペラがついています。前と後ろのプロペラは、ブレーキをかけていても、動きます。着地用のタイヤもあり、安心です。

人類が生まれたばかりのころは、歩くしかなかったのに、船や車ができ、そして飛行きまで発明しました。なら、他にも素晴らしいのりものが作れると、私は思います。

「次は、終点、強羅、強羅です。」

ホームに下りると、むねいっぱいに空気をすいながら、私は思いました。

（私が少しずつ歩くように、のりものも少しずつ進歩しているんだ。未来には、きっとすごいのりものができる。楽しみだな）

題名　べんりなのり物

学年　小学四年生　　名前　榎田千乃

わたしは、いつ、どこへでも、つれていってくれるゴンドラがいいなあとおもいます。

ゲームも、お昼ねも、ついたよと言うあいずをしてくれるので、とてもべんりです。そのゴンドラの、高さは、二十メートルぐらいで、横は、ナメートルぐらいのひろいゴンドラです。そう言うのができたら、のってみたいです。2人のりかというと、広いので、ねるスペースもとるからです。地面にタイヤがあり、そこでいくこともできるし、空をとぶこともできます。行くところは、自分で口でいえば、つれていってくれます。中に入る人たちは、夏は暑いので自動的にエアコンから、すずしい風がでてきます。冬は寒いので、エアコンから、あたたかい風がでてきます。ゲームでつうしんするときには、うしろに友だちがいるのなら、うしろの人とも、っうしんができます。とま、たりしたときには、マイクをつかって、こまったことを言うと、車やさんがきて、直してくれます。いろは、すきないろがえらべます。あるのは、水いろ、ピンク、黄いろ、黒です。そのゴンドラは、ほしいときに、二台くれるので、すごくべんりです。それに、暗くなると自動的にライトがつきます。自分のだったら、イルミネーションにすると、きれいだとおもいます。ゴンドラは、おりたたみなので、寺で、自分で持ってあるけます。あと、大きいの、中くらいの小さいのもあるので、店のなか、家の中でものれます。ゲームでは、画面にうつってやりたい物を、タッチすれば、ゲームができます。その他のがしたいときには、自分で口で言うと、そのゲームができます。テレビは横に大きいのが二つあります。ゴンドラの中で一ばくすることもできます。とても楽しくてべんりです。

題名　地球にやさしい乗り物

学年　小学4年生　名前　安野弘道

ぼくは、電車が大すきです。ぼくの家は線路がとなりにあるので、まどから電車がよく見えます。ぼくのまわりには、自転車や車などのいろいろな乗り物があります。そうした乗り物にくらべて、電車のどこがすごいのか考えてみました。それをしょうかいします。

まず、ぼくの考えたところは、けしきがよく見えるというところです。二階だての電車からは、ふだんとちがう別のけしきが見えるのでもっと気持ちがいいです。けしきを見ながら、おべん当を食べたり、トランプもできるし、四人向かい合わせで話しができるほど記ねんの思いでもつくれるからです。

そして、電車は車まり工コです。車はげんりんで走るので、はい気ガスをたくさん出しますが、電車は電気を使うのではい気ガスは出ません。また、車はたくさんのガソリンを使っても二くも人くらいまでしか乗れませんが、電車はたくさんの電気を使うけれど何百人ものお客を乗せて走れるので一人あたり使う電気の量は、少なくなります。だから、電気は空気をよごさなくて車よりむだなエネルギー使わない工コな乗り物です。

このように、電車はすごいところがたくさんあるので車より電車に乗りたいです。でも、ぼくは秋田に住むようになってから車にはいっぱい乗っているけど電車は数回しか乗っていません。そのわけは、秋田では、電車は二時に一本ぐらいしか走っていなくとても不便だからです。ぼくは、電車がすきなので残ねんです。これから駅がたくさんふえて電車がたくさん走れば便利になるからお客もたくさん乗って車に乗る人がへって工コになると思います。ぼくは、地球にやさしい乗り物をみんなに乗ってもらいたいです。また、しょう来はそのような工コな乗り物をつくりたいです。

題名　変形できる車

学年　小学5年生　名前　内田璃空

ぼくが、変形できる車のことに興味をもったのは、車のCMがかっこよかったからです。このCMは、普通の車が道を走っていてその車がロボットに変形するというものでした。その変形するところがかっこよかったので、この車にのってみたいと思いました。

それでぼくは、こんな車を造りたいです。すごく頑丈で、飛行機や、潜水艦や、ショベルローダーやロボットになります。自動で自分で考えて変形もして動いてくれて、ワープ装置も付いています。そして、水素と酸素だけで動く、地球にやさしいのり物です。

もっと詳しく、変形するのり物について話します。

初めは、飛行機です。

この飛行機は、四人乗りです。ちゃんと緊急用の、緊急クッションが付いています。緊急クッションとは、壁や地面に打つかりそうになった時に、クッションが出てきて、機体を守ります。飛行機の時速は、マッハ8です。

次は、潜水艦です。

この潜水艦は、水圧に耐えられるように、小さい形に変形します。小さいので、川もかるがるこえられます。山にキャンプに行く時は、車で行くより川ごえによって早く着きます。でも、この船は、よくゆれるので、ベルトをしていないと、あっちこっちに転がります。

その次は、ロボットです。

ロボットは、各種のセンサーなどが付いていて、大きい音も付いています。だから、エイリアンなどにいっせい攻撃されても、すべての攻撃を跳ね返します。

最後は、ショベルローダーです。

ショベルローダーは、道が土砂災害で道が通れなくなった時、土砂を退かすのに使います。

この車の名前は、カスタムチェンジカーです。

ぼくは、いつかこの車を作って乗りたいです。

題名　理想の車

学年　小学5年生

名前　柿元健佑

みなさんは、しょうらいにもしこんなものがあったらいいなと思うことはありませんか。ドラえもんでは無人のガソリンを使わないタクシーがでてくることがあります。そんなに乗り物をえらんでいきましょう。ぼくは、よおない乗り物がじょう来あったらがいいです。よら理由はわかりませんが、あってくれたらがいいです。みなさんは、なにがいいですか?ぼくは、もう一つ考えました。それは、人生を旅する車です。なぜなら一生一度くらいは人生をふりかえりたくありませんか。でも思い出せないかもしれない。そういう時その車にのるのです。ふりかえってみると、楽しい時悲しい時つらい時苦しい時などあったと思います。でもその時のりこえて今の自分がなると思います。だから、目をそむけないでふりかえってもらいたいです。あなたちのってみてください。もしかしたら自分が最も楽しかった時がよみがえってくるかもしれません。

題名　私と自転車

学年　小学五年生　名前　小坂彩芽

　自転車…今の私にとって最も身近で活躍してくれる乗り物です。車・バス・電車・飛行機等々もっと便利なものはあるけれど、いつでも自由自在に乗れる自転車は私の足となる存在です。今の自転車は三輪車から始まり四台目です。五年生で四台目と聞くとすごいと思うかもしれませんが新品は一台もありません。全て姉や近所の人のおさがりです。友達の新品の自転車をうらやましく思うこともあったけど、みんなの思い出がつまっていて愛着がある大切な自転車で最近は、エコしてるなぁと思うぐらいです。

　私の自転車の活躍の場は近所・習い事や友達の家までの往復・遊びそしてサイクリングです。自転車だと歩く時の何倍も速く行け快適です。風をきって走り、すがすがしい風がとても心地よく私のほっぺや身体を通っていきます。そんな時は気持ちよくペダルをこぐ足も軽やかです。でも、そんな時ばかりではなく向かい風や上り坂は歩く時よりもつらく、ペダルをこぐ足も重くカー杯ふんばって立ち乗りになるくらいです。その時は心の中で負けないぞ!!とさけんでいます。そこを乗りこえ下り坂になった時のピューッと進むあの心地よさは最高です。

　そこで自転車を私の好きなように設計できるならどんな機能を付けたいか考えてみました。一番に思いついたのは空を飛べる機能です。鳥のように空を飛んだり空から私の住む町を見てみたいからです。次に考えたのは太陽光パネルを利用して充電し、ふだんは自力で走り向かい風や上り坂の時は充電したエネルギーで走るという機能です。つらさを軽減できお年寄りにもやさしいからです。最後は好きな音楽を聞ける機能です。大好きな曲を聞きながら走ったらもっと楽しいだろうなぁ。こんな理想の自転車に乗っている姿を想像していたら、幸せな気分になりわくわくしてきました。実現するといいなぁと切望する私です。

題名 光合成で走る車

学年 小学五年生 名前 中木 圭

さいきん、ぼくの耳に、「エコ」や、「地球温暖化」という言葉が入ってくるようになってきました。なので、ぼくが将来出来てほしいのは、ものすごくエコロジーな、「光合成で走る車」という物です。外国のクラゲでなかなか、えさが食べられないので、体に、植物を飼って、植物から、光合成で作った養分をもらって生きていくという話を、テレビで見たので、この、「光合成で走る車」を考えつきました。どういう車かというと、このクラゲのように、車の外に、植物が植えてあって、その植物から、養分をもらって走るという車で、手入れは、水をかけたり、のびてきたら切るというだけです。雨の日は、その雨が酸性雨だったら植物がかれてしまうので、カバーをかけ、後ろにある、疑似太陽ランプという物をつけると、そのランプが太陽のかわりとなって、走れます。海や池や湖に入る時は、「もジャケット」という物を車につけると、入れます。空を飛ぶ時は、車から、羽がはえてきて、アルソミトラの種と同じバランスになり、空を飛べます。

将来ぼくは、この車を設計し、作り、自動車メーカーに売ってもらい、二酸化炭素をへらし、地球を守っていきたいなと思います。

題名 未来の車いす

学年 小学5年生

名前 長原翔太朗

ぼくは自動運転の電動車いすができたらいいなと思います。自動車の自動運転システムははったっしているのですが、車いすにこそ自動運転システムが必要ではないかと思います。

これがあれば目・足・手が不自由な人もかいごをしている人にあまりたよらず移動ができます。それに長い時間歩るいた人を遠くまではこぶことができます。

ぐたいできにはどう自う車いすかというと、車いすは近づくだけでぶ席がぶむかえてくれます。（リフトアップシートピー）乗りこんで行き先を言と自動で安全につれていってくれます。GPSを利用したナビゲーションシステムで、工事などの情報もわかります。カメラで信号や他の歩行者やしょう害物を見分け、安全に移動できます。ライト付で夜も安心です。

この車いすの名前はAWです。これはオート・ホイールチェアのりゃくです。

こんな車いすができたらいいなと思いませんか。ぎじゅつできにはむずかしくないと思うのでヘロボットカーもできているので。）やろうと思えばすぐにできるので五年ぐらいあれば作れると思います。

優秀

題名 星のふる電車

学年 小学5年生 名前 藤原 由衣

私は電車に乗るのが好きです。窓から外を見ると景色がどんどん変わってドキドキします。とくに一番前の車両だと運転している気分になれます。でも、満員電車の真ん中に乗ると外が見えてなくてつまりません。そんな時、天井がとう明だったらいいなと思うことがあります。そうすれば、雲や鳥を見ることができるからです。

ただ、夏の暑い日に天井がとう明だと、電車の中はすごく暑くなってしまいます。暑いどころか熱くなってしまいます。だから、夜だけとう明になるとおもしろいんじゃないかなと思います。ふだんはふつうの天井ですがスイッチを入れると、光を通すようにします。電車の中の電気を消せば、月と星のあかりを楽しむことができます。

窓とちがって天井なら、すわっても、立っても、満員電車の中だって、上を見上げただけで星空を楽しむことができます。ついでに電車の中で星の解説をしてもらえれば、気分はプラネタリウムです。

休日だと マンションや自動車の光が明るかったり、空気がよごれていたりして、星はあまり見えないかもしれませんが、空気のきれいないなかの電車だったら、今にもふってきそうなほどの星にかこまれて電車の旅を楽しめるのではないでしょうか。

夜、電車に乗る時はつかれいてねむいことが多いので、あまり楽しい思い出はありませんが、星の見られる電車なら、きっとつかれをわすれて楽しい気分で家へ帰れることでしょう。また、星を見るためにわざわざ夜に乗りに来るかもしれません。ただ、気持ちよすぎてねむりこけて終点まで行くことでも大へんなので、気をつけなければならないそうです。

おわり

題名　立山にいって

学年　小学5年生

名前　松田啓太郎

ぼくは、3年前に、おじいちゃんと、おばあちゃんと、お父さんとお母さんとぼくで立山にいっていろいろな乗りものに乗ったことをかきます。まずあさ駅までいってそこでおじいちゃんとおばあちゃんに合って、そこから新幹線で新大阪まで、と中、1回のりかえていきました。

新幹線は、速いし乗りごこちもいいけどもっと速くなって、目的地にみじかい時間でつけるといいなと思っています。

新大阪についたら、こんどは、特急列車にのりかえました。と中でのりかえました。

特急列車は、つうがする駅がおおいから、スピードがでて目的地につきます。

特急列車で糸魚川という駅にいきました。糸魚川から、次にのりかえる駅までは、ディーゼルカーでいきました。

ディーゼルカーのいいところは、電気をとるか線がなくても、ディーゼルエンジンで走ります。わるいところは、音がうるさいことと、空気がよごれるということです。でも前がよくみえてよかったです。

のりかえた駅から電車にのりました。この電車は、一つずつの駅にとまるので、近くにいくのにベトリです。

電車からおりたら、タクシーにのってホテルまでいきました。ホテルにとまって次の日の朝に、バスで、トロリーバスというのりものにのりにいきました。トロリーバスは、が線から電気をとって走るから、空気がよごれません。トロリーバスからのりかえてこんどは、ケブルカーにのりかえて、ケブルカーからロープウェイにのりました。ケーブルカーとロープウェイは似ていてロープを使って走ります。ロープウェイは、ロープにぶらさがるようにして走って、ケーブルカーは、ケーブルでひっぱります。

その次の日は、トロッコにのりました。トロッコにはまでがありませんでした。のりものを使って旅行をするとべんりだと思います。

題名　昔の車、今の車、未来の車

学年　小学五年生　名前　山根　久実

私のおじいちゃんは、車好きでした。私が生まれた時には、すでに天国へ行ってしまっていたので、話を聞けませんが、お父さんからお父さんの子どものころ、私のおじいちゃんが乗っていた車の事を聞きました。

そのころの車は、エンジンが後ろに付いていた軽自動車でよくとまっていたそうです。

坂道を上がる時は、青いけむりをもくもくとはいてのぼります。時々とまるので、子どもだったお父さん達が、おじいちゃんの車の後ろを押すくらい、車に力がなかったそうです。

今の車は、そんなことはありません。

また、おじいちゃんの車には、シートベルトもないし、ヘッドレストもなかったそうです。もちろん、エアコンなんて付いてなかったそうです。

今の車は、とまる事もほとんどなく、安全に走るために、いろいろな工夫がされているように思います。

けれども、車という機械を動かす楽しさは、昔の車の方があったように思います。だからおじいちゃんをうらやましく思います。

きっと、天国でもおじいちゃんは車の運転を楽しんでいると思います。

しょう来、もし、昔に行ける車ができたら、おじいちゃんのいた時代に行って、おじいちゃんの乗っていた車に、いっしょに乗ってみたいなと思います。

そんな車ができたらいいな。

題名　二〇三〇年　空の旅

学年　小学五年生　名前　渡辺　愛梨

今日は、二〇三〇年。私は、新羽田空港からニュージーランドへ旅行に行くことになりました。空港のチェックインカウンターに置いてあるイスに荷物を収め、私は、このイスに乗りました。手荷物検査場もこのイスのまま通過できます。このイスにあるボタンーつで自動的にレストランに行くことができました。ゆっくり食べているとイスが振動したので、あと少しで出発という合図でした。だから、早く食べ終え、飛行機に乗るというボタンを押すと、イスのまま搭乗口を通過して、飛行機の中まで自動的に入り、自分の座席のスペースにイスのまま乗り込めました。

離陸の時は、とても静かで振動もほとんどありませんでした。この飛行機は、水素を燃料としたエンジンを使っているそうなので、環境にいいなと思いました。しばらくすると好きな映画を選び、ねっころがり天井で映画を観て楽しみました。マッサージ機能もありとても気持ちが良かったです。

今日の旅行は、お母さんやおばあちゃん達もいっしょなので、飛行機の個室へ移動するというボタンを押して、個室のイスを向かい合わせにし、たくさんお話して、旅行の計画をするのに役に立ちました。

しばらくすると、トイレに行きたくなり、トイレに行くというボタンを押しました。二十年前などでは、トイレはせまかったけど、とても広くなっており衣替えやシャワーもでき、とても気持ち良く使えました。

気圧や風を読みとる技術が進み、飛行機がゆれる、急降下するなどということが無くなってきました。やがて、着陸しました。とても便利な飛行機になったなと思いました。二十年前は、十時間かかったけど今では、二時間で着きました。空港の設備や飛行機の性能は、技術者のおじさんのおかげで、とても向上しました。二十年前に見た二ユージーランドの大自然と目の前の大自然は、少しも変わりなく、安心して夢から、目が覚めました。

未来の乗り物

小学校六年　榎田　紗緒里

未来の乗り物に、地球にやさしい機械と、とても便利な機械があってほしいと思いました。

地球にやさしい車は、天気にあわせて走る車です。その日の天気が晴れだった時は、太陽の光で走る車になり、風がたくさんふいている日は風の力で走る車になり、雨や雪の時もその日の天気に応じて変わる車です。晴れの日はソーラーパネルが出てきて、風の日は風車みたいに回りながら電気を起こして走り、雨の日は水が落ちる力を利用して、風車みたいにまわすと電気ができる車になって、雪がふっている日は雪の積った重みで電気が発電される車です。

次に便利な車です。私はだれでも乗れる車があるといいなと思いました。だれでも乗れる車があると、障害を持っている人や、病気の人が好きな所に行けて、とても便利だからです。その人その人にあわせた車になり、いろいろな所へ自由に行ける車があると、みんなが便利になります。

たとえば、耳が聞こえなくて不自由な人には、音が文字となって出てきます。右の車がクラクションを鳴らせば、車の機械がクラクションの音を認識し、文字にして耳の聞こえない運転手に知らせてくれます。

このように、様々なたくさんの人々にとって自分にあった車があると運転できる人はもちろん、できない人もできてとても便利だなと思いました。

最後は、私があったらいいなと思う乗り物です。気球みたいにいろんな所へつれていってくれる乗り物があるといいなと思います。なぜなら、目的地に、はやく着くからです。そして、高い所は、鳥や景色が見られるので、とても楽しくなると思います。空を飛ぶ機械はきちんとハンドルやペダルをつけて飛んで外国に行ってみたいです。空を飛ぶ機械は方向や、スピードも自由にできるので、動物の観察をして、動物の気もちを見てみたいです。

乗っていて、楽しくなれて、しあわせな気分になれる乗り物。それが私の一番ほしい乗り物です。

題名　のりものってなんだろう

学年 小学6年生　名前 東泉和幸

ぼくの考えている、乗り物は、人を、乗せて動くものです。だから、自動車や、飛行機、船はもちろん、かたぐるまや、だっこも乗り物だと思います。それに、ジェットコースターや観らん車も、人を乗せて動くのでのりものだと思います。でも、かたぐるまは乗り物を思っている人は、少ないと、思います。もしかしたら、乗り物と思っているのは、小学生以下の子だけかもしれません。ジェットコースターと、観らん車も、乗り物と思われて、いません。でも、ジェットコースターは、乗り物と思っている人はでも、観らん車を、乗り物と思っている人はもしかしたら、いないかもしれないと思います。でわ、なぜ、自動車などは乗り物とみんな思うのでしょう。ぼくは、それは、進むからだと思います。そうすれば、ジェットコースターも、乗り物になると思うからです。でも、なんかちがうようなきがします。そこで次は、石油や、電気でうごくということも、

乗り物のとしましょう。そうすれば、また、ジェットコースターは、乗り物になります。そして、かたぐるまや、だっこは、乗り物から、はずれます。でも、まだ、なんかちがうような気がします。そこで、こんどは、すきな道を、通れるという条件にします。すると、ジェットコースターは、乗り物からはずれます。理由は、きめられた道しか、通らないからです。

いままで、書いたことから、乗り物とは、人をのせて、動き、好きな道は、好きなように、通れるのが乗り物です。

題名　のりもので地球を守る

学年　小学6年生　名前　樋口玲奈

「この車、燃費が悪いんだよなあ、そろそろ買いかえたいな。」と、運転しながら父がつぶやく。

「ネンピって何。」と、私がたずねる。

ネンピとは何か、父の車はリットルのガソリンでだいたい六キロメートル位走るということを、父はうまく教えてくれた。その時は、六キロメートルという数字がどのくらいのものなのかよくわからなかったので

「ふーん、そうなの。」と、返事をして終わった。

ある日、（燃費が良い）と書いてある車の広告をみてとてもおどろいた。それらの車のすべての燃費が三十キロメートル以上と書いてあり、今父が乗っている車の五倍以上も走ることができるというのだ。

地球温暖化が進み、今のままでは日本も海に沈んでしまうかもしれない。地球温暖化の原因のひとつとして人間が排出する二酸化炭素のえいきょうがいわれており、車の排気ガスもそのひとつときいた。

地球温暖化を少しでも防ぐために私の小学校では、毎週水曜日にアルミ缶回収を行っている。子ども会では、月に一度はい品回収を行い、私達六年生は、新聞、雑誌、ダンボール、古着などを回収する。回収したものを再利用し、少しでも地球の自然破かいを少なくするためだ。日曜日の朝の活動は眠いし、いやな時もある。

父の車の買いかえは簡単なことではない。しかし、燃費が良い車に買いかえることは、二酸化炭素排出量が少しでも少なくなり、地球温暖化を防ぐことにつながる。もし今度車を買いかえるときは、燃費が良い、地球にやさしい車を私も絶対推せんする。ひとつひとつは小さなことだけど、小学校や子ども会のリサイクル活動も大切にして、みんなで地球環境を守ることを考え、活動を続けたい。

題名　交通安全

学年　中学一年生　名前　草刈　佑太

　今、世界で使われている車。「遠くに出かけられる。」「重い荷物も、もっていける。」というメリットがあり、世界中の人々から人気を集めています。

　しかし、そんな車にも、デメリットがある。それは、車から出る排気ガスが地球をよごしている。」ということと、「ルールを守らない運転手が事故をおこし、死傷者を出す。」など、さまざまな問題がおこっていることです。

　一つ目の問題については、今現在、エコカーやハイブリッドカーなどの開発が進み、最近人々の関心をあつめています。

　二つ目の事故に関しては、シートベルトの着用、ルールを守って運転するなど、この問題を解決するには、どれも、自分自身で、気をつけ、いしきして行動するしか方法はないとおもいます。

　どんなに機械の進歩がすすんでも、人一人一人のいしきがかわっていかなければ、事故は無くなりません。「一人の不注意、みんなのめいわく」。この言葉は、ぼくが小学校六年生の時に、聞いた言葉です。一人が、ハンドルミスをおかせば、もしかしたら、近くにいた車にぶつかる可能性もあります。

　そのような事故をおこさないために、各地では、交通安全教室などをひらき、事故に対するいしきをたかめようと努力しています。ぼくたち子どもができること、それは、事故をおこさないこと、大人にできることも同じです。いつか世界で事故が無くなる日がくるといいですね。

「次世代の車」

学年中学二年生　　中川　創磨

毎年何千人もの人々が、車の事故で重傷を負ったり死亡しています。その多くは、夜間や、雨の日など、天候の悪い日に起っています。できれば、運転しにくい時には車を使わない方がよいのですが、車が生活の必需品となった今では、そういうわけにもいきません。では、なぜそのような日に事故が多発しているのかというと、車の中からの視界が悪いからではないでしょうか。すでに、視界をよくするために、フロントガラスやライトの開発が進んでいますが、それでも視界の悪さが原因の事は絶えません。だから、ぼくは、もっと視界が良い車を造りたいと思います。

例えば、車にカメラをつけて、風景を読み取り、コンピュータによって明るさを調節したり、雨の粒を消したりして、造られた映像をフロントガラスに映せば、「人が見えなかった」というような事故はすごく減ると思います。また、他の車や人が飛び出してきたのを察知すれば急ブレーキがかかるシステムがあればもっといいと思います。実際は、カメラに映った映像を一瞬でフロントガラスに映し出したりすることはとても難しいことだと思いますが、そんな安全な車が増えれば、ぼくたちはもっと安心して暮らせると思います。

題名　将来あったらいい自動車

学年　中学二年生　名前　中村紀博

私が将来あったらいいと思う自動車はいろいろな便利な機能がついていて安全な自動車です。

便利な機能は、ドアはカギをあけてドアの前に立つと勝手にひらいてくれます。エアコンは車の中の温度によってすずしくしたり、あたたかくしたりしてくれます。ライトはくらくなると光り、明るくなると自動で消えます。エンジンは二つ、つんでいてどちらか一方がこわれても片方で足ることができます。

助手席の足元には冷蔵庫があって夏にはいつでも冷たい飲み物が飲めるようになっています。冬にはとりはずしてトランクにしまうことができます。雨がふりだすとワイパーが勝手に動き出し雨がやむと止まります。後部座席はマッサージチェアになっていて、いつでも肩をもんでくれたり背中をたたいてくれます。また後部座席の前には、折りたたみ式のつくえがついていて、飲み物をおけたり食事をすることができます。小型のテレビもついています。安全なところは何かにぶつかったりするとエアバッグがふくらんでぶつかった後にはシートベルトが自動でとれてすべてのドアが自動でひらき、そこからにげることができます。エンジンがもえたときはエンジンの周りにある消火器が火をけしてくれます。座席の周りは防水になっているので川に落ちても水が入ってこないので川に落ちても安全です。ペーウィンドウにはセンサーがついていて手がはさまりそうになっているときは止まります。雪がつもっている時はバンパーが発熱して雪をとかしながら進むことができます。急加速をしたりするとブザーがなります。携帯電話を使ったり酒のにおいがすると、エンジンをかけようとしてもかけることができなくなります。

私が将来あったらいいと思う自動車はこんな機能をもつ自動車です。

題名　僕が思う自動車

学年　中学2年生　名前　宮﨑　翔也

僕が今、一番にしてみたい事は、車の運転です。そして、18才になったら真っ先に、車の免許を取りたいと思っています。ですが、僕の家では、車の免許を取る事をあまり良く思っていません。なぜかは、僕があんまり運動神経が良くなくて、スポーツ万能でもありません。自転車事故や、木に次つか、てメがえが真っ二つになって僕の顔は、ケガを負ってしまったり、手首を骨折してしまったりするからです。僕が、免母さんに、

JSME

18才になったらすぐ車の免許取るけんぴ。

つエーッ。大学卒業できたらな、あんたは、危ないけんぴと言って、話題を代えます。

僕は心の中でいつも、あんだが一番危ない運転をしているじゃないかとも思っている。

それは、僕が助手席に乗っていた時だった飛び出してきた車を避けたら、高い石垣にぶつかって、車はグチャグチャになって壊れてしまったからだ。その時、僕は転いむち打ちになって大事にはならなかったけれど、あんな恐ろしい運転手はこの世にいないと思いました。そこでいろいろ考えて思い付いたことがあります。それは、どんなにおそろしい運転手でも、安全に止まってくれる車です。車が安全にセンサーで止まってくれるのです。

そしてもう一つ思いついたのは、どんなに危ない石垣でも、車が飛んで危険から救ってくれる自動車です。

もしも、こんな自動車があったら、絶対安全になり、文句も言われることもなくなる。

車の免許も、もっと早く取れるんじゃないかと思いました。僕はいつも、いつも、

一つ車に気を付けろぴと事故の心配ばかりさせるので、危険を心配しないでいい安全な車ができたら、なんにも心配しないでいいのにと思いました。交通事故で死亡ニュースでよく聞きます。僕も死にたくはありません。

安全な自動車があるといいのにと思います。

これが、僕が思い付いた自動車です。

優秀

人を助ける乗り物『車椅子』

三年　有松明克

中学校

トゥルルル、トゥルルル、午後二時前に電話がなった。九州の祖父の携帯からだ。一瞬不安がよぎった。あれ、どうしてこんな時間に…。今、祖父は胃の手術ではなかったっけ。こんな時間に電話がかかってくるはずは無い。恐る恐る電話に出てみると、『明克か。今手術終わった。元気だよ。』え、今手術が終わったって。安心するとともに、こんなに早く電話できるんだっけ、という疑問も。

話を聞くと、腹腔鏡というものを用いて行った手術で、体への負担が非常に小さく、術後の対応も非常に良いものだという。

翌週、祖父のお見舞いに祖父の住む宮崎へ行った。

祖父は車椅子に乗っていた。自分で車輪を回すところまで回復はしていないものの、看護士さんに押してもらい、病院内を動き回っているとのことだった。

祖父の車椅子を押させてもらい、中庭に散歩に出てみた。初めちょっとコツをつかめば、楽に動かすことができた。僕も少しだけ座らせてもらい、自分で動かしてみた。自由に動くことはできるが、ちょっとした上り坂も結構な力が必要だった。

周りを見てみると、電動の車椅子に乗っている人もいた。こんなところにも、いろいろと機械の力を応用して、便利になっているのだな、と思った。体の不自由な方や足の弱い方などに、自由に動け回れない方にとって、車椅子は自分で移動する唯一の手段であるかもしれない。そのような方々を支える技術も、自動車や飛行機、そしてロケットなどの発展と同様に、世の中にはとても大切なものなんだな、というのが、今回の車椅子の体験で実感した出来事だった。

話は変わるが、先日のパラリンピックで、

20×20

車椅子を使った競技がいろいろとあることを知った。それぞれの目的に合わせて、いろいろと工夫がなされ、短距離、長距離、バスケットボール、そしてテニスまで、様々な種目で、それぞれの競技者が機械技術者と一緒になって、日々工夫を行い、改良を加えていく。

そんな姿が、日本の物作りを世界一にしてきたんだなと思えた。

地味で根気のいる仕事かもしれないが、こういう小さな改良に打ち込んでいる技術者たちを、すごい、と心から思った。

20×20

題名 潜水スポーツカー

学年 中学三年生 名前 内田天

僕がこの車の事を知ったのは、図書館で、世界記録2010という本からです。

読んだ時に思ったのは、これを作った人はすごいなぁと思いました。そして僕はこの車について少し調べました。潜水スポーツカーというのは、その名のとおり、海の中に潜れる車です。外見は、普通のオープンカーです。この車は、リチウムイオン電池で動いており海中でも排気ガスを出さず泳く事ができます。

そして僕が一番気になっていた事は、乗車している人はどうやって呼吸しているかです。

調べによると車の中にいる人達は、スキューバーダイビングセットを装着しながら、運転するそうです。

オープンカーなので脱出する時は、そのまま海上まで泳く事ができます。この車は水深100メートルまで潜水する事が可能です。

資料によると、この車を作った人の出身国はスイスだそうです。

僕はスイスが、水陸両用の車を作れるなら、日本はもっと便利な車が作れると思います。

僕が考える水陸両用で便利な車は、水深三十メートル位まで潜れて、スキューバーダイビングセットを使わずにすみオープンじゃなくちゃ人とカバーの着いた車です。エネルギーは、水素燃料電池が良いと思います。

なぜなら、潜水している時に海水を電気分解して、水素をチャージして、そのエネルギーで動かせるという効率の良いエネルギーの循環ができます。しかし、これには一つ問題があります。それは、電気分解するための電気が足りなくなったら、車が走れなくなっていくという事です。そのため、車が陸地や海中を進む時、向い風や水の抵抗を利用してプロペラなどを車の前に付けて電気をチャージする事や今の車のエンジンのダイナモをもっと改良すれば、この問題は解決できると思います。そんとこの車は少し重い車体が良いです。なぜなら軽い車体だと沈くからです。

僕はこんなクールな車ができればいいなぁと思います。

題名　未来を変える、「電磁波交通システム」

学年　中学三年生　名前　大柴弘貴

今、トヨタのハイブリッドカーのプリウス等におけるリコールが問題となっている。私は、初めにこのニュースを見たとき、驚きを隠せなかったが、それでもなお、人々のハイブリッドカーへの関心が無くなってしまってはいないと思う。

ハイブリッドカーが流行するのには、エコへの関心を持つ人が増加したことや、ガソリン代が安く済むということがある。それでもガソリンを使うため、エネルギーの半分程度は全て熱に変わってしまう。そうすると、都市部では、ヒートアイランド現象の原因にもなる。

そして開発されたのが、電気自動車である。発電所で作られた電気なので、一般の自動車よりも、はるかに発電効率は高いのだが、充電時間が走行時間と比べると長すぎるという欠点がある。

そこで私は、走りながら電源を供給できないかと考えた。それが、電磁波交通システムである。これは、電磁波を用いて電源を供給する技術を応用し、車にも電源を供給しようというものである。要するに、道路の中央分離帯に電磁波発信装置を埋め込み、電磁誘導によって発生する電流を使って車を動かすということだ。

私はこう思う。

「人が機械によって起こしてしまった様々な問題は、機械によって解決されるべきなのではないか」、と。

だから私は強く思う。

私は、私の提唱する「電磁波交通システム」を実用化し、人々、ひいては地球の役に立ちたい。

※電磁波交通システムの補足…車で電磁波を受信し、誘導電流でモーターを回す。これで無線での電力供給が可能になる。常時受信が条件となるが、都市部での利用価値は高いと考えられる。山間部ではガソリンを使用する。

私の「乗り物取り扱い説明書」

小学校三年　新山世衣

私は、先代や現代に生きる人間は様々な乗り物の取り扱い方を、一部間違えていると思う。そこで、時代の流れに沿って間違えている部分を三つ指摘すると共に、私の考えた「乗り物取り扱い説明書」の内容も、紹介していきたいと思う。

まず一つ目は、日本で一番最初に利用された乗り物、「駕籠（かご）」の取り扱われ方についてだ。駕籠は、江戸時代に広く利用され、主に竹を材料とし、人を乗せて一本の柄で担ぐ、今でいうタクシーのような乗り物だ。しかし駕籠は、身分によって形や色、さらに作られた方まで決められている。私は、いくら身分に敏感な江戸時代だからといって、乗り物にまで影響を与えるのは間違っていると思う。そこで、「乗り物は身分に関係せず、平等に利用する」という言葉をまず、説明書に書き記しておいた。

二つ目は、戦時中の飛行機や船の取り扱われ方についてだ。普通これらは、旅行の際に移動する時などに使われ、生活を便利にするものである。しかし戦時中は、飛行機や船を戦争の武器として、人を傷付けるために使われていたのだ。私は、乗り物を武器にすると被害も大きくなるし、ましては武器にしてはいけないと思う。だから、「乗り物は、争いの武器ではなく、皆を愉快な気分にさせることを目的として利用する」という言葉も、説明書に書き記しておいた。

三つ目は、現代でのベビーカーや車の取り扱われ方についてだ。現代の人は、改善すれば簡単に防げる事故を何回も起こしている。例えば、ベビーカーに幼児を乗せたまま階段を使ったり、電車やバスに乗降したりして転倒事故を起こすことがある。これは、大人が危険な利用方法を避ければ防げる事故である。車についても、シートベルトの未着用者をよく見かけるが、交通道路ではシートベルトを

着用しているだけで、死亡率は約二十六倍も低くなるので、同じことが言える。なので、「乗り物を利用する際は、操作・使用方法を確実に習得して、事故を起こさないように安全な運転をする」という言葉を、説明書の最後に書き記しておいた。

今まで紹介してきた、私の「乗り物取り扱い説明書」は短いけれど、言葉の一つ一つにとても深い意味がこもっている。皆が乗り物を正しく取り扱い、笑顔で使用できるよう、この説明書に書き記された内容をいつまでも心に留めてほしいと思う。